SAMSUNG

2026年11月6日

※サムスン電子(韓国本社)配信のコンテンツを翻訳した内容です。
※使用できる機能は国・地域・OS バージョン、デバイスのモデルなどによって異なります。

＜報道関係者各位＞

Samsung、KT・SK テレコムと韓国の「AI RAN」プロジェクトを推進

～ 両プロジェクトに選定された唯一のベンダーとして ソフトウェア主導の AI RAN ソリューションで産業分野のフィジカル AI を支援し AI ネイティブな 6G の実現を目指す ～

サムスン電子株式会社（韓国本社、以下 Samsung）は 2026 年 9 月 23 日、韓国科学技術情報通信部（MSIT）の「ハイパーAI ネットワーク（Hyper AI Network）」構想に基づく AI RAN プロジェクトについて、KT および SK テレコムと契約を締結したことを発表しました。Samsung は、KT とのプロジェクトでは唯一のグローバルベンダーとして、SK テレコムのプロジェクトにはメインベンダーとして参画します。韓国を代表する主要通信事業者との長年にわたる強固なパートナーシップと、ソフトウェア主導型の AI ネイティブネットワークにおける実績を背景に、Samsung は両プロジェクトに選定された唯一のパートナー企業となります。

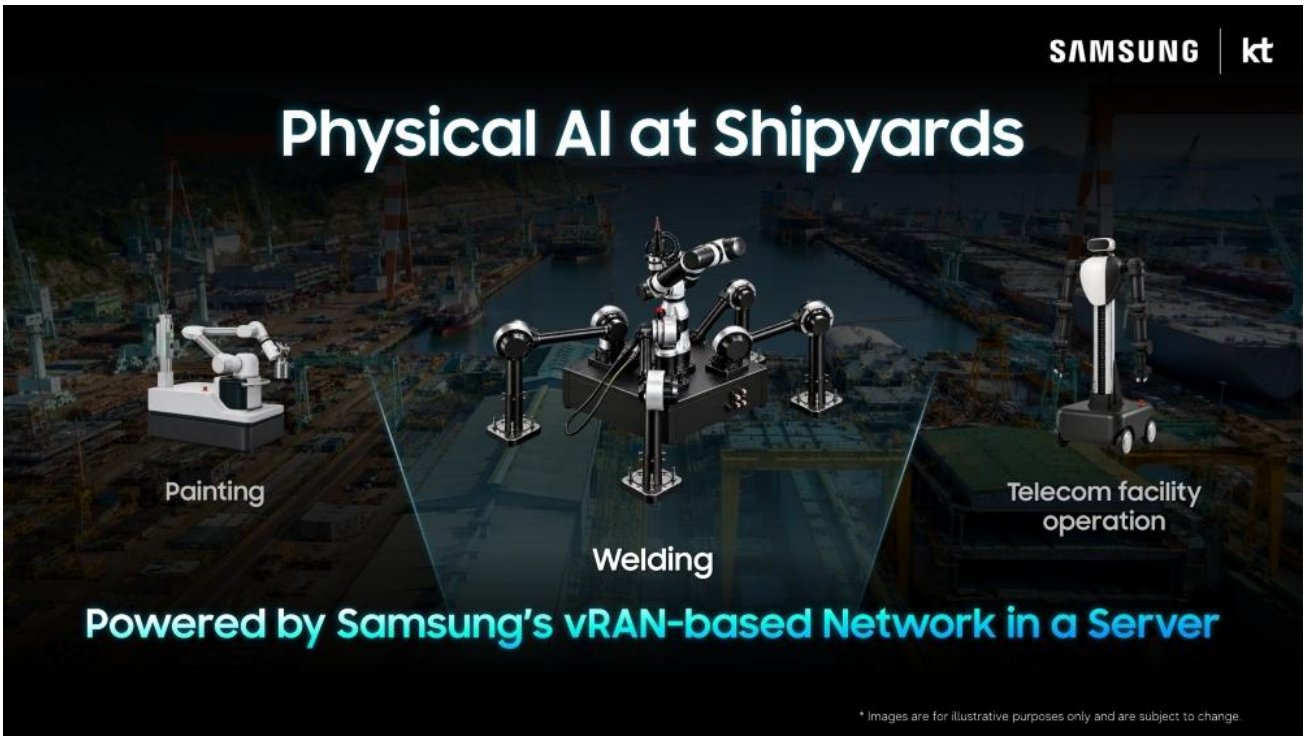
2026 年 10 月に始動する両プロジェクトでは、造船所や石油化学施設などの産業現場に、5G スタンドアローン（SA）方式のプライベートネットワーク環境を構築します。これにより、AI RAN の機能を検証し、今後の本格導入に向けた実環境での知見を得ることを目指します。

MSIT 主導による両プロジェクトには、通信事業者、ネットワークソリューションプロバイダー、その他の業界パートナーが参加します。この連携により、AI RAN、フィジカル AI、自律型オペレーションといった最先端技術の社会実装を加速させるとともに、次世代通信規格「6G」への移行に向けた技術基盤を確立させます。

サムスン電子副社長 兼 ネットワーク事業部開発チーム長の June Moon は、「韓国は長年にわたり、世界のデジタル技術の発展をリードしてきました。韓国に深く根ざした主要パートナーとして、今回の AI RAN プロジェクトを通じ、主要通信事業者様とともにネットワークの次なる革新を推進できることを誇りに思います。AI が身体性を持つ AI（エンボディド・インテリジェンス）へと進化をする中、通信ネットワークは人間型ロボットや自動運転車など、知識を備えた新世代の機械をシームレスにつなぐ中核プラットフォームへと変貌しつつあります。実際の産業現場において、AI RAN とフィジカル AI を組み合わせることは、未来のコネクティビティ社会の実現に向けた極めて重要なマイルストーンとなるでしょう。」と述べました。

■造船所における AI 搭載溶接ロボットの実証実験

世界を代表する大手造船メーカーである HD 現代三湖（HD Hyundai Samho）の霊岩（ヨンアム）造船所では、KT がフィジカル AI を活用した主要なサービスの実証実験（フィールド試験）を実施します。この実証実験では、製造現場における溶接ロボットや塗装ロボットの運用から、通信設備の運用を担う自律型ロボットの活用に至るまで、多岐にわたる検証が行われます。



AI 搭載の四足歩行溶接ロボットの実証では、Samsung は仮想化 RAN（vRAN）、AI コア、AI アプリケーションで構成される統合型エッジ AI プラットフォーム「Network in a Server（NIS）」や高度なネットワーク自動化を実現する「Samsung CognitiV Network Operations Suite（NOS）」などのソフトウェア主導型 AI ネイティブ・ソリューションを提供し、KT を支援します。5G 通信とエッジ AI プラットフォームを活用することで、この四足歩行ロボットは作業環境を自ら把握し、極めて精密な溶接作業を実行することが可能になります。

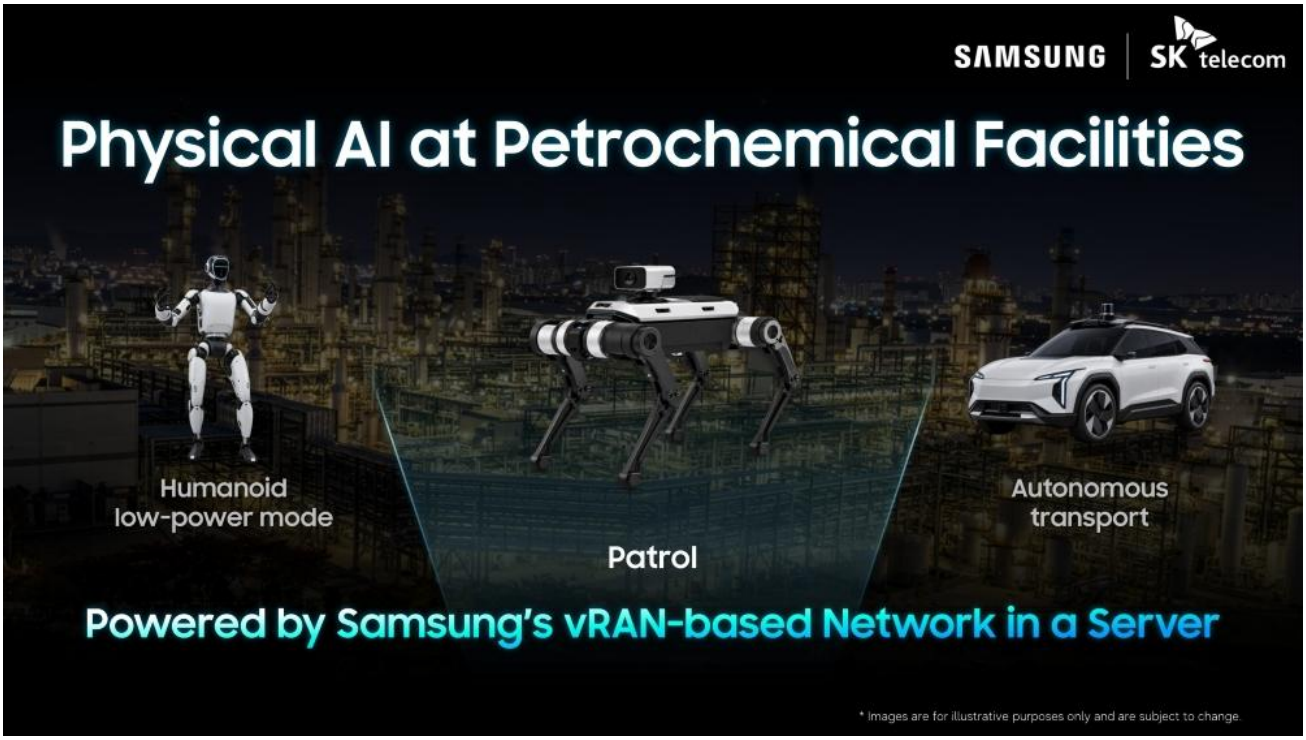
こうした機能を通じて、Samsung は産業現場におけるフィジカル AI サービス特有の厳しいネットワーク条件に対応します。実際の産業現場でロボットをリアルタイムに制御するためには、超低遅延、高い信頼性、そして安定した実効データ転送速度が不可欠です。現場にシステムを設置し、そこでデータを処理するオンプレミス環境への導入とローカルでのデータ処理を前提に設計された NIS は、データが生成され意思決定が行われる現場のすぐ近くでネットワーク機能と AI 機能を提供します。NIS は AMD EPYC™ 8004 シリーズ・プロセッサを搭載した Supermicro 製の汎用（COTS）コンパクト・エッジサーバーと Wind River Cloud Platform を利用した vRAN および 5G SA（スタンドアローン）コア・ソフトウェアを稼働させます。また、そのソフトウェア主導の仕組みにより柔軟な拡張が可能であり、各現場条件に合わせて、処理を高速化する GPU コンピューティングを必要に応じて組み込むことができます。

KT 専務の Jongsik Lee 氏は「KT は今回のプロジェクトを AI とネットワークが融合する次世代通信の在り方を検証する重要な出発点と位置づけています。Samsung とともに、AI RAN 対応のプライベートネットワーク環境でさまざまなフィジカル AI サービスを実証し、AI ネイティブな 6G 時代をリードする中核技術とサービスモデルを確立してまいります。」 と述べています。

■石油化学施設における自律型パトロールロボット

韓国が推進する「ハイパーAI ネットワーク」構想のもう一つの重要な取り組みとして、SK テレコムは首都圏の主要なエネルギー拠点である SK 仁川（インチョン）石油化学でフィジカル AI サービスの実証実験を実施

します。今回の検証には、危険エリアを巡回する自律型ロボットや監視カメラ（CCTV）を活用したモニタリングシステムが含まれます。このパトロールロボットは、施設内を移動しながら高精細な映像をリアルタイムで転送します。これにより、AI による分析で潜在的な危険を検知し、統合的な監視体制を構築することが可能になります。



Samsung は SK テレコムのプロジェクトに対して、AI ネイティブなエッジソリューション「NIS」を提供します。両社は、複雑な化学プロセスにおいて厳格な監視と極めて正確な運用が求められる石油化学施設において、AI ネイティブな接続環境が安全性と効率性をいかに向上できるかを検証します。

SK テレコムのネットワークテクノロジーオフィス責任者である Takki Yu 氏は、「SK テレコムでは、AI が適切な基盤と組み合わせることで、より大きな価値を生み出すと考えており、今回のプロジェクトはその考えを実践するものです。当社の AI に関する知見を活かし、Samsung と協力して実環境におけるフィジカル AI サービスを検証するとともに、政府のハイパーAI ネットワーク構想および AI ハイウェイ政策を根底から支える中核技術として、AI RAN の進化を発展させてまいります。」と述べました。

Samsung の AI RAN は異常検知、実効データ転送速度の向上、エネルギー効率改善など多彩な機能を提供しており、これらはすでに世界で稼働中の商用ネットワークで実証されています。Samsung はこうした実績をもとに、通信事業者やパートナーと継続的に連携し、AI ネイティブかつ 6G を見据えたネットワークの実社会への展開を拡大するとともに、グローバル市場における AI 活用サービスの普及を推進していきます。

Samsung のネットワーク事業はチップセット、無線装置、コアネットワークを含む 5G のエンドツーエンド・ソリューションの提供において業界を牽引してきました。継続的な研究開発を通じて 5G ネットワークの進化を主導しており、市場をリードする製品ポートフォリオにより、6G およびその先を見据えた次世代通信への道を切り拓いています。専用装置を用いた RAN、vRAN、Open RAN、AI RAN、クラウドネイティブ AI コア、プライベートネットワークソリューション、AI を活用した自動化ツール（CognitiV NOS）などによって、現在も世界中

の数億人のユーザーに途切れることのないシームレスな通信環境を届けるべく、各国の通信事業者に革新的なネットワークソリューションを提供しています。

●「Samsung Galaxy」は Samsung Electronics Co., Ltd.の商標または登録商標です。
●その他、記載されている会社名、商品名、サービス名等は、各社の商標または登録商標です。